News Release

ちょっと先の未来のために私たちにできること

岐阜信用金庫

2024 年 3 月 29 日

日本蜂蜜株式会社との

ポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約締結について

岐阜信用金庫（理事長 好岡 政宏）は、持続可能な社会への貢献を共に実現するため、日本蜂蜜株式会社（代表取締役 木方 將文）と、「**ポジティブ・インパクト・ファイナンス**」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

岐阜信用金庫は、引き続き、地域金融機関としての責任を果たし、ポジティブ・インパクト・ファイナンスの普及と持続可能な社会を実現するために、お客さまの目標にあわせたサポートを行い、ポジティブな社会的、環境的、経済的なインパクトの実現に積極的に取り組んでいきます。

記

【契約内容】

実　行　日	2024 年 3 月 15 日
融 資 金 額	200 百万円
期　　間	7 年
資 金 使 途	事業資金

【企業概要】

企　業　名	日本蜂蜜株式会社
所　在　地	岐阜県岐阜市金宝町三丁目十一番地
代　表　者	木方 將文
事 業 内 容	はちみつの製造・販売、はちみつ加工品の製造・販売、 蜂産品（ローヤルゼリー、プロポリス）の販売、 メープルシロップの販売
資　本　金	2,050 万円
設　　立	1953 年 8 月 13 日
第三者評価機関	株式会社 格付投資情報センター 評価レポート：https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html

以　上

日本蜂蜜株式会社
ポジティブインパクトファイナンス評価書

2024 年 3 月 15 日

GIFUSHIN

おかげさまで100周年

岐阜信用金庫は、日本蜂蜜株式会社（以下、「日本蜂蜜」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクトおよびネガティブインパクト）を分析・評価した。この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、岐阜信用金庫が開発した評価体系に基づいている。

目次

1. 事業概要 3
(1)企業概要 3
(2)沿革 3
(3)経営理念 4
2. サステナビリティ 5
(1)社会貢献に資する取り組み 5
(2)環境保全に資する取り組み 6
(3)社員のモチベーション向上と人材育成に資する取り組み 6
3. インパクトの特定 8
(1)事業内容 8
(2)バリューチェーン分析 10
(3)インパクトレーダーによるマッピング 11
(4)特定したインパクト 15
(5)インパクトニーズの確認 19
4. KPI の設定 22
5. モニタリング 24
(1)日本蜂蜜におけるインパクトの管理体制 24
(2)当金庫によるモニタリング 24
(3)モニタリング期間 24

1. 事業概要

(1)企業概要

同社は岐阜県岐阜市に本社を構えるはちみつを主要製品とした食料品製造業である。

設立以来、「自然の恵みである純粋なはちみつをみなさまのもとへ」という思いを大切に、時代の変化やお客様ニーズに即したはちみつ製品づくりを通して、新たなはちみつの楽しさ、優しさ、心地よさを提案している。

企業名	日本蜂蜜株式会社
本社所在地	岐阜県岐阜市金宝町 3-11
代表者	木方　將文
資本金	2,050 万円
売上高	2,255 百万円（2023 年 12 月期）
設立	1953 年 8 月 13 日
事業内容	はちみつの製造・販売、はちみつ加工品の製造・販売、蜂産品（ローヤルゼリー、プロポリス）の販売、メープルシロップの販売
従業員数	35 名（パート・アルバイト従業員を含む、2024 年 2 月現在）
資格・認証	岐阜市 HACCP 導入施設認定

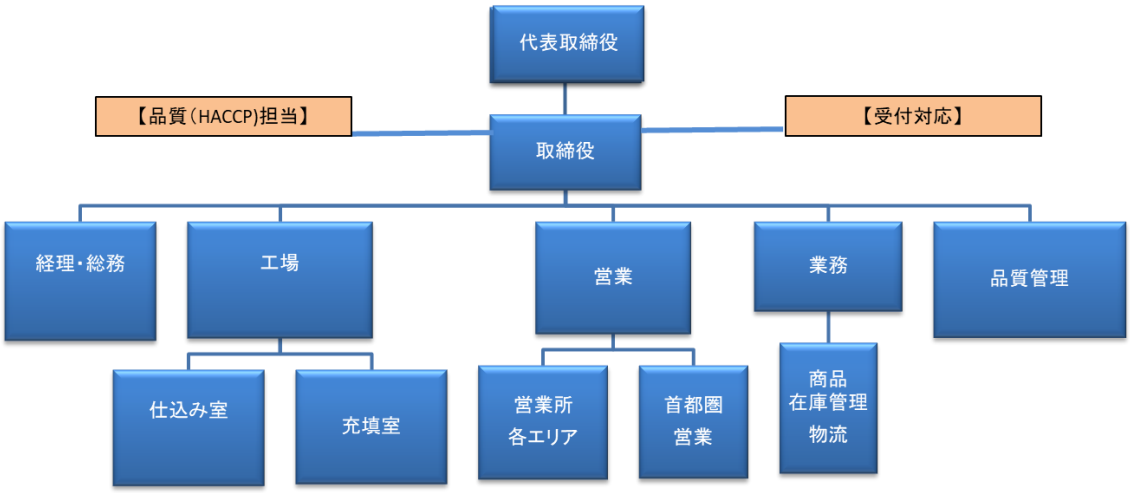
(2)沿革

1953 年	岐阜市下竹町にビタミン蜂蜜工業株式会社として設立
1955 年	岐阜市金宝町 3-11 に移転　商号を日本蜂蜜販売会社と改める 商号を日本蜂蜜株式会社と改める
1965 年	東京支店開設
1993 年	現代表取締役が代表取締役へ就任
2001 年	岐阜工場建設
2008 年	カナダ産はちみつを全国展開で発売
2009 年	「はちみつを使いやすく」をコンセプトに新型倒立容器（300g）を開発・発売
2010 年	アルゼンチン産はちみつを全国展開開始 新システム（HF）を導入（オンライン化）
2014 年	新型倒立容器シリーズ（245g）発売
2016 年	フランス、ハンガリー等、欧州産はちみつの発売
2018 年	岐阜市 HACCP を取得、岐阜倉庫建築
2022 年	令和 4 年度岐阜市食品衛生優良施設に認定

(3)経営理念

①経営理念

②組織体制



2. サステナビリティ

(1)社会貢献に資する取り組み

同社では花とミツバチの営みから生まれる天然甘味料であるはちみつを主力製品とし、世界各国の良質なはちみつを安定的に確保し、国内工場で厳格な品質管理のもと製造された安全・安心な製品を安定提供することで人々の健やかな暮らしに貢献している。

具体的な取り組み内容は下記の通りである。

【グローバルなサプライチェーンのもとでの高品質はちみつ製品の安定提供】

・同社では国産に加えて中国、カナダ、ハンガリー等をはじめとする厳選した世界各国からの高品質はちみつの仕入れ体制を整備し、個性豊かなはちみつを安定提供している。

・自然素材であり、同産地国であっても蜜源、採蜜場所、時期によって風味や香り、色合いの異なるはちみつについて、独自のブレンド手法によって安定した品質の製品を安定提供している。

・国内でいち早くカナダ産・アルゼンチン産はちみつの取り扱いを開始するなど、“純粋なはちみつ”を製品の軸としながら顧客のニーズやトレンドをとらえた新たな製品づくりに継続的に取り組み、はちみつ業界の進展に貢献している。

【HACCP 認証による徹底した衛生管理を通じた安全・安心を軸とした製品づくり】

・同社製品はすべて、HACCP 認証を取得した厳格な品質管理を実施する岐阜県内の自社工場で製造しており、顧客が安心して口にすることができる安全性と品質を維持し、高品質な製品づくりを実施している。

・HACCP 認証のもとでの製造管理、衛生管理については、認証取得後も衛生管理担当者への専門教育の充実を図るとともに、全従業員に対する勉強会や改善活動などの取り組みを継続的に推進し、さらに高いレベルの安全・安心を追求している。

・国内産・海外産に関わらず、同社が取り扱うはちみつは「いつ・どこで」採蜜されたものかがわかるようロット単位で一元管理を実施しており、調達先による検査実施記録の確認に加え、受け入れ前に改めて自社で検査を実施し、品質を厳しくチェックするとともに、トレーサビリティの確保に努めている。

・出荷前の試験検査においては、十分に水分が熟成された状態になっているか、砂糖や水あめなどの異性化液糖が添加されていないか、体に有害な成分が含まれていないかなど、さまざまな項目の品質検査を専任スタッフが実施し、出荷を待つわずかな間も品質が損なわれることのないよう、自社倉庫で適正に保管している。

※HACCP 認証とは

HACCP とは、1960 年代に米国で宇宙食の安全性を確保するために開発された食品の衛生管理の方式。原材料受入から最終製品までの各工程であらかじめ危害を予測し、危害防止につながる特に重要な工程を継続的に監視・記録することが求められる。

認証は取得して終わりではなく、3 年ごとに更新審査があり、有効性が保たれているのか検査される。つまり、老朽設備の更新や管理体制の維持などが必要となり、企業には継続的な取り組みが求められる。

(2)環境保全に資する取り組み

同社では環境負荷の抑制を志した事業活動の展開を図っている。

具体的な取り組み内容は下記の通りである。

【流通用資材、パッケージのエコ素材化推進、廃棄物削減】

・入出荷に使用する段ボール等の運搬用資材についてはリサイクルを推進しており、また一部製品のパッケージについてはバイオマス素材への切り替えを実施するなど、製品周辺のエコ素材化の推進、廃棄物削減に積極的に取り組んでいる。

【製造環境を中心とした省エネルギー化の推進】

・社内照明の LED 化推進を通じた省エネルギー化の推進および、製造用設備についても省エネ仕様設備への計画的な更新により製造環境を中心とした省エネルギー化を推進している。

・工場に 2 機設置するボイラーについても、製造ラインの稼働状況に合わせて最適な使用状況を選択することで、過剰なエネルギー使用を抑制している。

・本社および工場における電力使用量推移を月次で確認し、使用量を把握しながらの継続的な改善活動を通じた省エネルギー化を推進している。

(3)社員のモチベーション向上と人材育成に資する取り組み

同社では一人ひとりの従業員がやりがいを持ち、いつまでも安心して働くことのできる職場づくりに取り組んでいる。

具体的な取り組み内容は下記の通りである。

【多様な人材が働き続けられる職場環境の整備】

・再雇用制度、産休・育休制度の完備、時短勤務等、従業員個々の状況に応じた柔軟な対応による多様な人材が働き続けやすい職場環境の形成を推進している。

・年次有給休暇の計画付与を 10 日間とすることや、製造のタイムスケジュール管理等を通じた業務効率化による長時間労働の抑制、育児・介護の支援を通じた従業員がワーク・ライフ・バランスを確保しやすい職場環境形成を推進している。

【従業員がやりがいを持って働き続けられる職場風土の醸成】

・6 か月に 1 度の目標設定、振り返り面談をパート従業員、アルバイト従業員含め全従業員と実施し、個々の成長と業務貢献に応じた賃金見直しを実施している。

・業務マニュアル、スキルマップの制定を通じた業務の標準化、多能工化を推進しており、従業員のスキルの現状、成長意欲の促進につなげている。

・フォークリフト免許など業務上必要となる資格の取得支援および資格手当の設定により従業員の免許や資格取得へのモチベーション向上へつなげている。

・OJT を中心とした技術習得環境の整備、現場レベルでの数字に基づく改善活動を通じて常にチャレンジする姿勢を評価する社内風土づくりに努めている。

3. インパクトの特定

(1)事業内容

近代養蜂発祥の地と呼ばれ、養蜂業が盛んだった岐阜県で誕生した同社は、確かな品質のはちみつを安定的に提供する技術・ノウハウを蓄積、自社ブランドの「レンゲ印」も立ち上げ、甘くておいしいだけでなく、豊富な栄養成分を含むはちみつを余分な加工を行わず確かな品質のもとで届け、人々の食と健康を支えている。

国内で消費されるはちみつの 90%以上が輸入に頼らざるを得ない近年の状況のなかでも、同社では世界各国の良質なはちみつを安定的に確保するとともに、国内からも良質なはちみつを確保し、多様な産地のもとでのはちみつ製品を安定提供している。

	日本蜂蜜の代名詞である「レンゲ印」のはちみつから、厳選した世界各国のはちみつまで、蜜源、採蜜場所、時期によって風味や香り、色合いの異なる個性豊かなはちみつ製品を同社ではラインナップし安定提供している。
	同社では安定した製品供給のため、海外産地より定期的に仕入れを行い、14℃前後の温度環境倉庫にて保管し、需要に応じた製品出荷を可能としている。

同社はちみつ製品はすべて、HACCP 認証を取得した厳格な品質管理を実施する岐阜県内の自社工場で製造しており、品質に妥協を許さない試験検査を経て安全で高品質なはちみつだけを顧客に納入している。

この自社工場では、すべての工程におけるリスクを事前に分析し、従業員の入場時の衛生チェックから生産設備の定期的な洗浄・殺菌、工場内で使用する洗剤や薬品の管理まで、安全性を確保するための仕組みを構築、厳格に運用しており、自動充填ラインの活用による効率化を図りながらも各工程で全数目視検査を実施することで品質を確実に確保している。

	＜はちみつの下処理＞ 特殊な撹拌機により丁寧に適切な温度で湯せんとろ過を行い、結晶化を解除し不純物を取り除く。製品の充填工程とはゾーンで区分け管理し、設備や服装などの衛生ルールに則り実施している。
	＜自動充填ライン＞ 下処理されたはちみつは衛生管理されたパイプを通って充填エリアへ搬送され、スピードと製品の衛生管理を両立する高性能の自動機によって容器に充填される。
	＜目視検査＞ 製品は充填およびパッケージングの各工程で全数、目視検査を実施し、異物の混入がないか、容器やキャップに汚れがないかなどを確認することで確かな品質を確保している。
	＜箱詰め＞ 最終工程である箱詰めは、目視と手による丁寧な作業で行われ、一つひとつ、すみずみまで確認し、合格したものだけが日本蜂蜜の製品として出荷されている。
	＜分析評価＞ 最終製品は品質管理の専任スタッフが定期的な理化学分析や官能評価により厳しくチェックし、原材料のロット単位で検査記録とサンプルを保管することでトレーサビリティを確保している。

同社では良質なはちみつを安全かつ安定的に供給する技術・ノウハウを磨き上げてきたことに加え、国内外の連携先との協業を通じてはちみつ製品の進化や新たな価値創造に積極的に取り組んできている。その過程で、使いやすさとデザイン性を追求したポリ容器を開発したり、国内でいち早くカナダ産・アルゼンチン産はちみつの取り扱いを始めたりと、はちみつ業界の進化に貢献し、顧客のニーズやトレンドをとらえた新しい製品づくりに取り組み続けている。

	同社では常に顧客視点に立った改善への取り組みを継続しており、その一つが同社製品の定番となっているレンゲ印の倒立容器である。 当初はガラス容器が定番であったはちみつ容器について使いやすさを追求しポリ容器へ変更し、さらなる使いやすさの追求から液だれしにくく、量が少なくなっても欲しい量だけ中身が自在に取り出せる倒立容器の開発に至っている。 高品質なはちみつをより使いやすい形で顧客の手元へ届けるための飽くなき探求心が同社の企業風土として刻まれている。

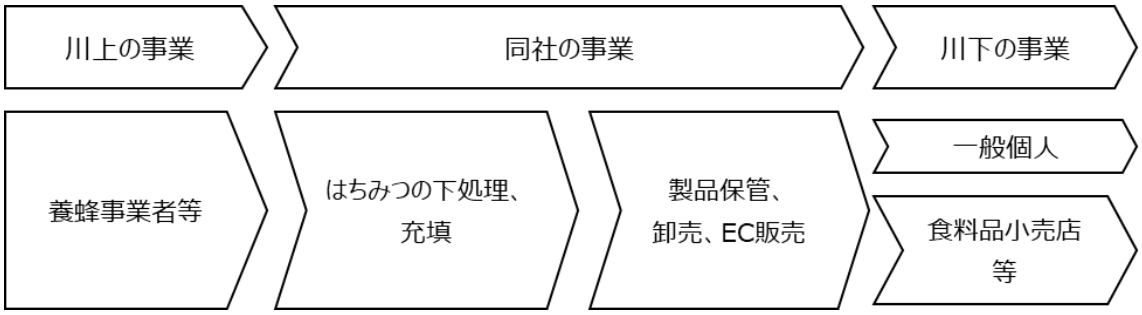
このように高品質なはちみつ製品の提供体制を磨き上げ続けてきた同社はちみつ製品は、各種食料品小売店や同社 EC サイトでの販売を通じて一般消費者へ提供されており、販路については増加するコンビニエンスストアなどをはじめ拡大を続けている。

(2)バリューチェーン分析

インパクトの特定のため、同社主力事業についてバリューチェーン分析を実施した。

同社は長年にわたり信頼関係を築いてきた国内外の取引先から原材料や包材を調達し、HACCP を導入した生産工場にて徹底した衛生管理のもとでの原料保管、小分け充填、品質検査のうえで小売店への販売、自社オンラインストアでの EC 販売を経由して一般消費者へ安全で保証度の高いはちみつ製品を届けている。はちみつ製造においては、同社が各国から原材料を調達し、下処理や容器への充填を実施することで、市場に流通させる上での品質を担保している。

同社のバリューチェーン図（図は同社提供資料をもとに岐阜信用金庫にて作成）



(3)インパクトレーダーによるマッピング

先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。

同社の事業および川上・川下の事業を国際産業標準分類（ISIC）上の業種カテゴリに適用させた上、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」（以下 PI）と「ネガティブインパクト」（以下 NI）を想定する。

同社の事業については「他に分類されないその他の食料品製造業（ISIC:1079）」、は「通信販売またはインターネットによる小売業（ISIC:4791）」を、川上の事業については「その他の動物の飼育（ISIC:0149）」を、川下の事業については「食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業（ISIC:4711）」をそれぞれ適用し、発生するインパクトの検証を行った。

◎：主要カテゴリ　○：関連カテゴリ

	川上の事業		同社の事業				川下の事業	
			①		②			
国際産業標準分類 / インパクトカテゴリ	【0149】その他の動物の飼育		【1079】他に分類されないその他の食料品製造業		【4791】通信販売またはインターネットによる小売業		【4711】食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業	
	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
水		○						
食糧	◎		○				○	
住居								
健康・衛生	◎	○		◎				○
教育								
雇用	◎	○	○	○	○	○	○	○
エネルギー								
移動手段								
情報								
文化・伝統			○					
人格と人の安全保障								
正義・公正								
強固な制度・平和・安定								
水（質）		○		○				
大気								
土壌		○						
生物多様性と生態系サービス		○						
資源効率・安全性		○		○				
気候				○				
廃棄物		○		◎		○		
包括的で健全な経済			○		○	○	○	
経済収束	○					○		

上表のうち、同社の事業①における「文化・伝統」、「水（質）」、同社の事業②における「経済収束」については同社事業活動との関連性が希薄と判断され、また、川上の事業、川下の事業は同社事業活動が与える影響については軽微なものとなるため、分析を省略している。

同社の事業① 他に分類されないその他の食料品製造業（ISIC: 1079）

PI	「食糧」「雇用」「包括的で健全な経済」
NI	「健康・衛生」「雇用」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」

【社会面】

◆「食糧」

はちみつ製品の製造販売を通じて良質な食事へのアクセス性を向上させるという PI が発現する。

はちみつは 9 割以上が輸入に頼らざるを得ない状況であり、安定調達が重要となる。同社は国産に加えて中国、カナダ、ハンガリー等をはじめとする厳選した世界各国からの高品質はちみつの仕入れ体制を整備し、国内への供給体制を確立していることで PI を拡大している。

上記は SDG3「すべての人に健康と福祉を」に該当する。

◆「健康・衛生」

医薬品や添加物が含まれる食事は健康に悪影響を与える可能性があるという NI が発現する。同社では豊富な栄養成分を含むはちみつを余分な加工を行わず確かな品質のもとで届けることで NI を緩和している。また、HACCP 認証のもとで製造管理、衛生管理を実施しており、不純物の混入を防ぐ体制を確立し NI を緩和している。

上記は SDG3「すべての人に健康と福祉を」に該当する。

◆「雇用」

従業員の雇用の創出という PI と、労働形態によっては労働者の健康状態が脅かされるという NI が発現する。

同社では従業員個々の状況に応じた柔軟な対応による多様な人材がワーク・ライフ・バランスを確保しながら働き続けられる職場環境の形成に努めることで PI を拡大している。さらに、従業員がスキルアップに積極的に取り組み、挑戦する姿勢が評価される企業風土の醸成を通じて PI を拡大している。

また、製造のタイムスケジュール管理等を通じた業務効率化による長時間労働の抑制など、労働形態の改善を通じて NI を緩和している。

上記は SDG8「働きがいも経済成長も」に該当する。

□「8.5：2030 年までに、若者や障害者を含むすべての女性と男性にとって、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい仕事を実現し、同一労働同一賃金を達成する。」

□「8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある人々を含め、すべての労働者を対象に、労働基本権を保護し安全・安心な労働環境を促進する。」

【環境面】

◆「資源効率・安全性」「気候」

非効率な製造プロセスはエネルギーの過剰消費につながり、温室効果ガスの排出により地球温暖化に影響を与えるという NI が発現する。

同社では社内照明の LED 化推進を通じた省エネルギー化の推進や省エネ使用設備への計画的な更新により製造環境を中心とした省エネルギー化を推進することで NI を緩和している。

上記は SDG13「気候変動に具体的な対策を」に該当する。

◆「廃棄物」

加工廃棄物および老朽化した機械の廃棄物の発生により NI が発現する。

同社では蜂蜜の受入前に自社で検査を実施し、不純物の混入による製品廃棄を抑制している。出荷を待つ製品も自社倉庫で適正管理することで、廃棄物抑制に取り組み NI を緩和している。また、入出荷に使用する段ボール等の運搬用資材のリサイクル推進やパッケージのバイオマス素材への切り替えを実施し廃棄物削減に取り組むことで NI を緩和している。

上記は SDG12「つくる責任使う責任」に該当する。

□「12.5：2030 年までに、廃棄物の発生を、予防、削減（リデュース）、再生利用（リサイクル）や再利用（リユース）により大幅に減らす。」

【経済面】

◆「包括的で健全な経済」

事業活動により健全な経済の一翼を担うという PI が発現する。

同社では厳選した世界各国から高品質なはちみつを安定的に輸入できる体制を構築し、国内への安定した流通を手掛けることで、安定・安心の供給維持を担い PI を拡大している。

上記は SDG9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に該当する。

同社の事業② 通信販売またはインターネットによる小売業（ISIC:4791）

PI	「包括的で健全な経済」
NI	「包括的で健全な経済」

「雇用」「廃棄物」については同社の事業①と重複するため記載を省略する。

【経済面】

◆「包括的で健全な経済」

事業活動により地域経済が活性化するという PI が発現する。

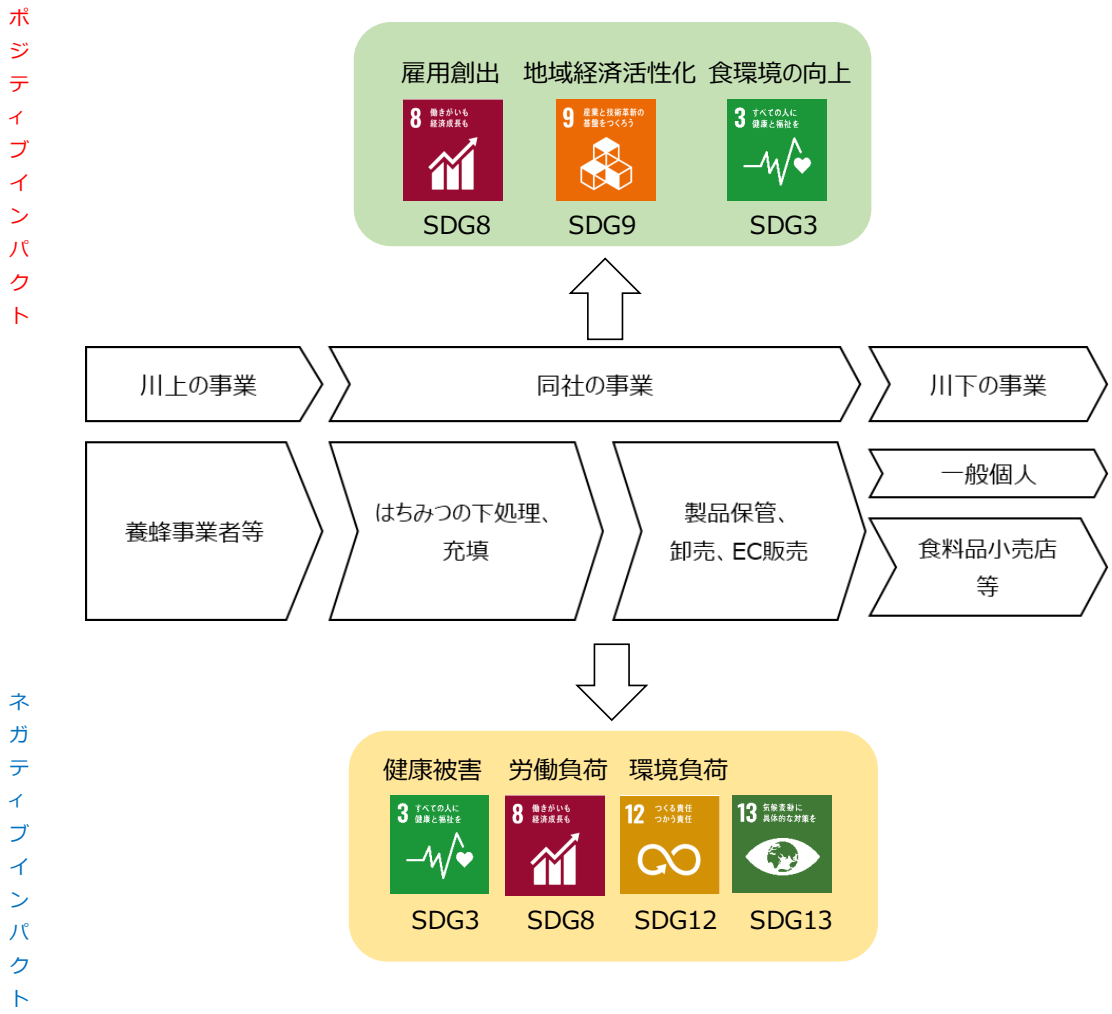
一方、通信販売の普及に伴い、地域小売業などの発展を阻害する可能性があるという NI が発現する。

同社では自社製品の EC 販売の展開を通じて、PI 拡大に努めており、また小売流通に関してもスーパーマーケットやコンビニエンスストアなど多様な販売チャネルへの卸売を展開することで NI の緩和に努めている。

上記は SDG9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に該当する。

(4)特定したインパクト

下図は「バリューチェーン分析」「インパクトマッピング」の結果を踏まえて、同社のバリューチェーンが与えるインパクトを可視化したものである。



以上を踏まえて同社のインパクトを下記の 3 つに特定した。

【重要なインパクト】

「良質なはちみつ製品の安全かつ安定的な提供体制の整備」

「環境に配慮した事業活動の推進」

「社員の働きがい創出と人材育成」

① 良質なはちみつ製品の安全かつ安定的な提供体制の整備：SDG9

同社は世界各国の良質なはちみつを安定的に確保し、国内工場で厳格な品質管理のもと製造された安全・安心なはちみつ製品を安定提供することで人々の健やかな暮らしの実現に貢献している。

製品調達面においては、蜜源、採蜜場所、時期によって風味や香り、色合いの異なる個性豊かなはちみつについて、同社では多様な産地からの仕入れ先を確保するとともに、定期的な仕入れと自社倉庫でのはちみつの適正保管、独自のブレンド手法により常に安定した品質の製品提供を可能としている。

また、製品の加工、充填面においては HACCP 認証を取得した自社工場にて徹底した衛生管理、トレーサビリティ管理、検査体制のもと、品質に妥協を許さない安全で高品質なはちみつだけを顧客に納入する体制を整備している。

さらに、同社では使いやすさとデザイン性を追求した倒立型ポリ容器の開発や、国内でいち早くカナダ産・アルゼンチン産はちみつの取り扱いを始めるなど、はちみつ業界の進化に貢献し、顧客のニーズやトレンドをとらえた新しい製品づくりに取り組み続けることでグローバルなはちみつサプライチェーンの進展、業界全体の発展をけん引してきている。

今後、多様な仕入れ先産地の確保や HACCP 認証工場での製造体制の改善に継続的に取り組んでいくとともに、販路面に関しても従来からのスーパーマーケット等への卸売りだけでなく、コンビニエンスストア向けの卸売り、小売以外の業種での業務利用やノベルティ利用ニーズの開拓、自社 EC サイトでの販売を強化していくことで同社製品を手に取る機会を増加させていく方針であり、顧客ニーズ、トレンドにあわせた製品サイズラインナップの見直しをはじめとする新製品開発、既存製品改良に取り組んでいく。

これらの取り組みを通じて、地域における食環境向上への貢献、多様な産地からのグローバルなはちみつ製品サプライチェーンの安定化への貢献を強化していく。

これらのインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「包括的で健全な経済」のカテゴリに該当し、経済的側面の PI を拡大すると考えられる。

② 環境に配慮した事業活動の推進：SDG12、13

同社では HACCP 認証に基づく衛生管理、生産管理体制のもとで製造環境の衛生面確保、トレーサビリティ確保を徹底するとともに、照明環境の LED 化推進や製造設備の計画的な省エネ設備への入れ替え、製造ライン稼働状況に合わせたボイラー使用など製造環境におけるエネルギー効率の向上を図り、事業展開による環境負荷抑制に取り組んでいる。

また、運搬用資材のリサイクル使用推進や、パッケージフィルムのエコ素材化の推進を通じた廃棄物の削減、環境負荷の抑制に積極的に取り組んでいる。

今後においても継続的な自社エネルギー消費量の推移の把握に努めながら製品 1 単位あたりの製造に要するエネルギー使用量を把握し、継続的な改善活動を通じて製造工程を中心としたエネルギー使用量の削減に取り組んでいくとともに、製品パッケージフィルムのエコ素材化を推進することで環境保全への取り組みを強化していく方針である。

これらの取り組みを通じて、環境に配慮した生産工程改善の推進を実現する。

これらのインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「気候」「廃棄物」のカテゴリに該当し、環境的側面の NI を緩和すると考えられる。

③ 社員の働きがい創出と人材育成：SDG8

・多様な人材の雇用促進

同社では再雇用制度、産休・育休制度の完備、時短勤務等、従業員個々の状況に応じた柔軟な対応による多様な人材が働き続けやすい職場環境の形成を図ることで地域における雇用創出に貢献している。

今後においても、多様な人材が働ける環境の整備、改善に継続的に取り組み、多様な人材の確保、育成に努め、持続可能な地域経済への貢献を強化していく。

・従業員のスキルアップ支援

6 か月に 1 度の目標設定、振り返り面談をパート従業員、アルバイト従業員含め全従業員と実施し、個々の成長と業務貢献に応じた賃金見直しを実施することや、業務マニュアル、スキルマップの制定を通じた業務の標準化、多能工化を推進しており、従業員のスキルの現状把握や成長意欲の促進を図り、常にチャレンジする姿勢を評価する社内風土づくりを通じた人材育成を図っている。

今後においても、キャリアプラン、スキルマップの整備、見直しを定期的に実施していくとともに、改善提案の受付、実行を通じて常にチャレンジする姿勢が評価される組織作りを実践していき、更なる社内人材の育成と同社の価値向上を図っていく。

・働き続けやすい職場環境の形成

同社では年次有給休暇の計画付与を 10 日間とすることや、製造のタイムスケジュール管理等を通じた業務効率化による長時間労働の抑制、育児・介護の支援を通じた従業員がワーク・ライフ・バランスを確保しやすい職場環境形成に努めている。

今後においても、従業員の意見を取り入れながら設備面、制度面の両面から従業員が安全、安心に働き続けられる労働環境の整備、改善に継続的に取り組んでいき、健康経営優良法人の認定を取得しながら従業員が心身ともに健康に働き続けられる職場づくりに関する様々な取り組みを推し進める方針としている。

これらの取り組みを通じて、社員が健康的で働きがいをもって働ける職場環境を整備し、一人ひとりの成長を促すことが可能となる。

これらのインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「雇用」のカテゴリに該当し、社会的側面の PI を拡大し社会的側面の NI を緩和すると考えられる。

(5)インパクトニーズの確認

① 日本におけるインパクトニーズ

同社売上の大半は日本国内におけるものであり、国内における SDG インデックス＆ダッシュボードを参照し、そのインパクトニーズと同社のインパクトとの関係性を確認した。

本 PIF において特定したインパクトに対応する SDGs のゴールは、以下の 4 点である。

「 8：働きがいも経済成長も」

「 9：産業と技術革新の基盤をつくろう」

「12：つくる責任、つかう責任」

「13：気候変動に具体的な対策を」

国内における SDG ダッシュボード上では、「9」に関しては「達成に近づいている」とされているものの、「12」、「13」に関しては「大きな課題が残る」、「8」に関しては「重要な課題が残る」とされており、同社におけるグローバルなはちみつ製品サプライチェーンの安定化への取り組みや、従業員の雇用創出・育成への取り組み、環境負荷低減の取り組みなどが、日本国内におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。

（出典：SDSN）

② 岐阜県におけるインパクトニーズ

同社の事業活動は立地する岐阜県を中心に行われていることから、「岐阜県 SDGs 未来都市計画」を参照し、岐阜県内における SDGs 達成に向けての課題を確認した。

下記の通り、岐阜県では「<環境>美しい清流とそれを育む豊かな森の保全と活用」、「<経済>「清流の国ぎふ」ブランドと変化に強い地域経済の確立」、「<社会>誰もが活躍し生きがいを感じられる地域社会の構築」を 2030 年のあるべき姿と設定し SDGs 達成に向けた課題を設定しており、同社におけるグローバルなはちみつ製品サプライチェーンの安定化への取り組みや、従業員の雇用創出・育成への取り組み、環境負荷低減の取り組みなどが、岐阜県におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。

（出典：岐阜県第 2 期 SDGs 未来都市計画の概要）

③ 岐阜信用金庫との親和性

◆「ぎふしん SDGs 宣言」

以下の 3 項目を SDGs 達成に向けた重点課題としている。

（1）持続可能な地域の経済成長のための活動

（2）持続可能な地域産業の基盤構築のための活動

（3）持続可能なまちづくりのための活動

◆親和性の確認

本件 PIF の取り組みに際し特定した当社のインパクトである「良質なはちみつ製品の安全かつ安定的な提供体制の整備」については、「ぎふしん SDGs 宣言」の(1)、(2)、(3)と、「環境に配慮した事業活動の推進」については「ぎふしん SDGs 宣言」の (2)、(3)と、「社員の働きがい創出と人材育成」については、「ぎふしん SDGs 宣言」の (3)と親和性があり、相互に協力しあうことで、「経済」「社会」「環境」の 3 つの側面に渡り、持続可能な開発に関する枠組みとして、良質な効果が発生するものと思われる。

以上から、本件 PIF の取組みは追加性のある PI 創出支援を行うものであり、その本源的目的との合致を確認したうえで SDGs 達成に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることを目指すものである。

4. KPI の設定

特定したインパクトの発現状況を今後も継続的に測定可能なものとするため、先に特定したインパクトに対し、インパクトの種類、インパクトカテゴリ、関連するSDGs、内容・対応方針および目標とKPIを整理、設定する。

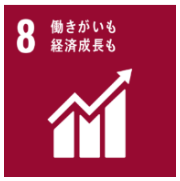
■良質なはちみつ製品の安全かつ安定的な提供体制の整備

項目	内容
インパクトの種類	経済的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・HACCP 認証のもとでの高品質はちみつ製品製造体制における継続的な改善活動の実施 ・顧客ニーズ、トレンドを踏まえた新製品開発、新規調達先開拓の実行 ・新規重点販路であるコンビニエンスストア向けの販路開拓活動の実行、製品サイズバリエーション等拡大の検討、実行
目標と KPI	・2030 年 12 月期において、全社売上規模 25 億円を達成する。 ・2030 年 12 月期において、新規重点販路であるコンビニエンスストア向け卸売売上規模 1 億円を達成する。 ・2030 年 12 月期において、自社 EC 販売売上規模 1,000 万円を達成する。 ・2030 年 12 月期において、HACCP 認証を継続する。

■環境に配慮した事業活動の推進

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトカテゴリ	「気候」「廃棄物」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・パッケージフィルムのエコ素材化切り替えに向け、対象製品の選定、パッケージ素材の選定、作成を推進する。 ・電力消費量の見える化推進を通じ省エネ推進に継続的に取り組む。
目標と KPI	・2025 年 12 月期において、包装フィルムにエコ素材を活用した製品ラインナップを 3 アイテムへ拡充し、その後も順次切り替えていく。 ・2030 年 12 月期において、製品 1 単位製造あたり消費電力量を 2023 年実績対比で 10%低減する。

■社員の働きがい創出と人材育成

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 社会的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・従業員の意見を取り入れながら多様な人材が働き続けられる環境の継続的な労働環境の整備、改善を推進する。 ・スキルマップの整備、見直しを通じて従業員の種別ごとの役割の明確化、必要なスキルの明確化を推進する。 ・健康経営優良法人認定の取得を通じ、従業員が健康に働き続けられる職場環境改善に継続的に取り組む。
目標と KPI	・2025 年 12 月期までに健康経営優良法人認定を取得し、以後認定を継続する。 ・2028 年 12 月期までに、月間平均残業時間を 2023 年実績である 40 時間から 35 時間へ抑制する。

5. モニタリング

(1)日本蜂蜜におけるインパクトの管理体制

同社では、木方社長と木方取締役を中心に自社業務の棚卸を行い、本 PIF におけるインパクトの特定、並びに KPI の設定を行った。

今後については、以下の体制を中心とした同社プロジェクトチームが柱となって SDGs の推進、本 PIF で設定した KPI の進捗管理を行っていく方針である。

【モニタリング体制】

統括責任者	代表取締役	木方　將文
プロジェクトリーダー	取締役	木方　隆文

(2)当金庫によるモニタリング

本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と岐阜信用金庫の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。情報共有については、少なくとも年に 1 回実施することに加え、日々の情報交換や営業活動を通じて実施していく。

(3)モニタリング期間

下記の通り融資返済期限と同一期間にて定める。

モニタリング期間 （返済期限）	7 年間 （2031 年 2 月 25 日）

【留意事項】

１．本評価書の内容は、岐阜信用金庫が現時点で入手可能な公開情報、日本蜂蜜株式会社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。

２．岐阜信用金庫が本評価に際して用いた情報は、岐阜信用金庫がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。岐阜信用金庫は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。

３．本評価書に関する一切の権利は岐阜信用金庫に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。